

目的 肩部は衣服の支持部であるにもかかわらず、多くの細かい隆起の集合による複雑な曲面から構成されるため、人体の中でも特に大きさや形のとらえにくい部位である。そこで、肩部を把握するための一手段として、非接触三次元測定法であるモアレ写真法を用い、成人女子体幹上半部を計測した。肩部付近を中心に頸部から胸部にかけて、15の水平断面を作成した。これらの断面から体つきの特徴をよく表現していると思われる、断面上の測定値4項目（周長、面積、扁平示数、凶心の位置）を選択し、連続的な推移の様子を観察した。併せて、生体計測も実施し、これら二次元図形特性値と比較するため、各被験者ごとのカウプ示数も算出した。

方法 被験者は、19歳から28歳の女子学生および助手54名である。撮影には生体計測用モアレ写真撮影装置（Fujinon Moire Camera FM-405）を用い、上半身裸体、静立位の被験者の左半身を45°ずつ5方向から撮影した。なお、解析に用いた機器は HITAC M280H、解析プログラムは ONITAS によった。また、生体計測はマルチン法に準じた。

結果 全被験者をカウプ示数により肥満度別に3グループに分類し、断面上の4項目の測定値をそれぞれ、これらグループ間で比較した。その結果、肥満度別グループ間に最も有意差が多く認められた項目は面積で、周長、扁平示数がこれに続いた。また、凶心の位置は肥満度とは無関係であることが明らかになった。